

# 第 20 回日本環境毒性学会研究発表会

## プログラム

2014 年 9 月 10 日（水曜日）、11 日（木曜日）

富山国際会議場

参加費：一般会員 5,000 円 非会員 7,000 円 学生 2,000 円（要旨集代を含む）

懇親会費：一般会員および非会員 5,000 円 学生 3000 円

大会委員長：楠井 隆史（富山県立大学工学部 教授）

2014 年 9 月 10 日（水曜日）

- 08:15- 受付開始
- 09:00-09:05 開会の挨拶：A 会場（201-202 室）
- 09:05-14:40 奨励賞応募講演発表：A 会場（201-202 室）  
（12:10-13:00 昼食休憩）
- 14:55-16:05 特別講演、
- 16:15-18:20 企画シンポジウム講演発表：A 会場（201-202 室）
- 18:30-20:30 懇親会および奨励賞受賞者発表：1 階 カフェ・ドゥ・ミュゼ

2014 年 9 月 11 日（木曜日）

- 09:15- 受付開始
- 09:30-12:00 一般公演発表：A 会場（201 室） B 会場（202 室）  
（12:00-13:00 昼食休憩）
- 12:00-12:10 CERI 学術賞授賞式：A 会場（201 室）、引き続き、日本環境毒性学会通常総会
- 13:00-14:00 ポスター発表：C 会場（203 室）
- 14:10-16:10 一般公演発表：A 会場（201 室） B 会場（202 室）
- 16:15-16:20 閉会の挨拶：A 会場（201 室）

### 口頭発表 発表者の方へ

- ご発表のファイルは、開会の前か昼食休憩中に各会場の PC にインストールし、動作確認をお願い致します。  
9 月 10 日（水曜日）：開会の前 8:15-9:00、昼食休憩 12:10-13:00  
9 月 11 日（木曜日）：開始前 9:10-9:25、昼食休憩 12:00-13:00、ポスターコアタイム中 13:00-14:10
- ファイル名は演題番号と苗字にしてください。（例：A-1 楠井）
- ファイルは CD または USB メモリーでお持ちください。Office Power Point 2007 および Adobe Acrobat Reader をご用意します。
- Macintosh をご利用の方は Windows で利用可能な形式にするか、ご自分で PC をご用意ください。
- スライド操作は、発表者ご自身でお願い致します。
- ご発表は必ず下記時間内で終了するようにお願い致します（発表時間 20 分）。  
一鈴：13 分 二鈴：15 分（発表終了） 三鈴：20 分（質疑討論終了）
- シンポジウム講演の発表時間は 15 分間（質疑討論はシンポジウムの最後にあります）。

### ポスター発表 発表者の方へ

- ポスターは A0 サイズで作成してください。
- ポスターの掲示は 1 日目（9 月 10 日）の昼食休憩終了まで、撤去は 2 日目（9 月 11 日）の 16:00 までをお願い致します。
- ポスター発表者は、コアタイム中は必ず自分のポスター前で待機してください。

8:15- 受付開始

9:00-9:05 開会の挨拶(A会場(201-202室) 大会実行委員長 楠井隆史(富山県立大))

## &lt;奨励賞応募講演発表 A会場(201-202室)&gt;

座長: 雑賀 修(株式会社 日曹分析センター)

9:05-9:25 S-1 バイオレメディエーションによる石油分解生成物の影響評価 石油バイオレメディエーションは環境に優しいか?  
 ○永井雄太<sup>1)</sup>, 小山次朗<sup>2)</sup>, 宇野誠一<sup>2)</sup>, 新堀清正<sup>3)</sup>, 岡田翔太郎<sup>3)</sup>  
 (1 鹿児島大学院・水産学研究科, 2 鹿児島大学・水産学部, 3 海事検定協会理化学分析センター)

9:25-9:45 S-2 海産ヨコエビを用いた底質中 PAHS 長期毒性評価  
 ○若宮久人<sup>1)</sup>, 小山次朗<sup>1)</sup>, 久楽喬<sup>2)</sup>, 関雅範<sup>2)</sup> (1 鹿児島大学水産学部, 2 (一財) 化学物質評価研究機構)

9:45-10:05 S-3 下水処理場放流水における糖質コルチコイドのモニタリング  
 ○佐藤健太郎<sup>1)</sup>, 仲山慶<sup>1)</sup>, 磯部友彦<sup>2)</sup>, 鈴木剛<sup>3)</sup>  
 (1 愛媛大学・沿岸環境科学研究センター, 2 国立環境研究所・環境健康研究センター,  
 3 国立環境研究所・資源循環・廃棄物研究センター)

10:05-10:25 S-4 PAMPA を用いた化学物質の生物濃縮性予測  
 ○田辺愛子, 井上義之, 橋爪直樹, 村上秀和, 吉田智彦, 辻敏昭 ((一財) 化学物質評価研究機構)

10:25-10:30 休憩

## 座長: 柏田 祥策(東洋大学生命科学部)

10:30-10:50 S-5 非 IGR であるマクロライドラクトン系農薬の幼若ホルモン作用について  
 ○阿部良子<sup>1)</sup>, 高信ひとみ<sup>1)</sup>, 渡部春奈<sup>1)</sup>, 鎌迫典久<sup>1)</sup>, 井口泰泉<sup>2)</sup> (1 国立環境研究所, 2 NIBB)

11:50-11:10 S-6 酵母レポーターアッセイ法による異なる昆虫「目」間のエクジソン受容体応答性の比較  
 ○松浦麻衣<sup>1)</sup>, 原島小夜子<sup>1)</sup>, 川西優喜<sup>1)</sup>, 中川好秋<sup>2)</sup>, 八木孝司<sup>1)</sup> (1 阪府大院・理・生物, 2 京大院・農・応用生命)

11:10-11:30 S-7 メダカ胚インジェクション法を用いた Benzo[c]phenanthrene 水酸化体の毒性評価と遺伝子の発現変動  
 ○吉武修平<sup>1)</sup>, 堤 裕紀<sup>1)</sup>, 森崇人<sup>1)</sup>, 鶴田幸成<sup>1)</sup>, 島崎洋平<sup>1)</sup>, 大嶋雄治<sup>1)</sup>, 鈴木信雄<sup>2)</sup>, 早川和一<sup>3)</sup>  
 (1 九州大学大学院農学研究院, 2 金沢大学環日本海域環境研究センター, 3 金沢大学医薬保健研究域薬学系)

11:30-11:50 S-8 魚類におけるペルフルオロオクタンスルホン酸の血液蓄積機構の解明  
 ○牟田朱美, 本田匡人, 赤坂泰輝, 島崎洋平, 大嶋雄治 (九州大学大学院農学研究院)

11:50-12:10 S-9 魚類胚期急性毒性試験及び胚・仔魚期短期毒性試験の感受性比較 水生生物の保全に係る水質環境基準項目を対象として  
 ○菅原幸恵<sup>1)</sup>, 中村中<sup>2)</sup>, 鎌迫典久<sup>1)2)</sup>  
 (1 東京大学大学院 新領域創成科学研究科, 2 国立環境研究所 環境リスク研究センター)

12:10-13:00 昼食休憩

## 座長: 菊地 幹夫(神奈川工科大学)

13:00-13:20 S-10 海藻を用いた環境影響評価法の検討-ホンダワラ類幼胚の保管期間及び海水 pH の影響-  
 ○辻清明, 三木理, 奥村真子 (金沢大学)

13:20-13:40 S-11 50 種類の金属元素についてのミジンコ急性遊泳阻害試験および繁殖試験  
 ○岡本暁<sup>1)</sup>, 鎌迫典久<sup>1)2)</sup> (1 東京大学大学院新領域創成科学, 2 国立環境研究所)

13:40-14:00 S-12 瑞梅寺川流域における農薬汚染と単細胞藻類への影響評価  
 ○平松大介, 島崎洋平, Mst.Ruhina Margia Khanam 大嶋雄治 (九州大学大学院・農学研究院)

## 座長: 関 雅範(一般財団法人化学物質評価研究機構)

14:00-14:20 S-13 Copper toxicity test of Japanese medaka (*Oryzias latipes*) and establishment a Biotic Ligand Model  
 ○Wilmy Etwil Pelle<sup>1)2)</sup>, Masashi Kamo<sup>3)</sup>, Takeshi Kimura<sup>4)</sup>, Yohei Shimasaki<sup>1)</sup>, Yuji Oshima<sup>1)</sup>  
 (1 九州大学大学院・農学研究院, 2 サンラツランギ大学, 3 産業技術総合研究所, 4 新日本環境コンサルタント)

14:20-14:40 S-14 OxyPAHs のヒメダカ胚に対する発生への影響と代謝攪乱  
 ○河野真知<sup>1)</sup>, 宇野誠一<sup>2)</sup>, 國師恵美子<sup>2)</sup>, 小山次朗<sup>2)</sup> (1 鹿児島大学大学院・水産学研究科, 2 鹿児島大学・水産学部)

14:40-14:55 休憩

14:55-16:05 <一般公開特別講演>

イタイイタイ病「全面解決」の現状とカドミウム腎症の今後 (青島恵子 氏 萩野病院)

16:05-16:15 休憩

<企画シンポジウム>

生態学視点でのリスク評価の今後 -生物多様性を考えた環境毒性評価を発展させるために-

16:15-16:20 SS-0

趣旨説明

高橋宏和 (ライオン株式会社)

16:20-16:35 SS-1

個体レベルの毒性データから個体群・群集レベルの生態リスクを読み解く

田中嘉成 (国立環境研究所・環境リスク研究センター)

16:35-16:50 SS-2

個体群影響評価が進まない5つの理由

加茂将史 (産業技術総合研究所・安全科学研究部門)

16:50-17:05 SS-3

環境中濃度の違いが河川の底生動物群集に及ぼす影響

三崎貴弘 (国立環境研究所・環境リスク研究センター)

17:05-17:20 SS-4

水田メソコズム試験による農薬の生態影響評価

笠井敦<sup>1)</sup>, 林岳彦<sup>1)</sup>, 五箇公一<sup>1)</sup>, 早坂大亮<sup>2)</sup> (1 国立環境研究所, 2 近畿大学・農学部)

17:20-17:35 SS-5

フラスコサイズマイクロコズムを用いた界面活性剤の生態影響評価

高橋宏和、臼井秀人、吉田浩介 (ライオン株式会社 環境・安全性評価センター)

17:35-17:50 SS-6

OECD 国際標準化に向けたマイクロコズムを活用した化学物質の生態系リスク影響評価手法

稲森悠平<sup>1)</sup>, 村上和仁<sup>2)</sup>, 賀数邦彦<sup>3)</sup>, 稲森隆平<sup>3)</sup>, 神蔵雄生<sup>3)</sup>, 柴田賢一<sup>4)</sup>, 雨宮 隆<sup>4)</sup>, 杉浦 桂<sup>5)</sup>

(1 (公財) 国際科学振興財団, 2 千葉工業大学, 3 (公財) 国際科学振興財団, 4 横浜国立大学, 5 相模女子大学)

17:50-18:20

総括・総合討論

高橋宏和 (ライオン株式会社 環境・安全性評価センター)

18:20-18:30 休憩 懇親会場へ移動

18:30-20:30

懇親会および奨励賞受賞者発表

1階 カフェ・ドウ・ミュゼ

## &lt;一般講演発表&gt;

座長：大津 和久 ((独) 農業環境技術研究所)

- 9:30-9:50 A-1 アニリン類4物質の藻類同時ばく露試験  
○関雅範, 吉川真弓, 奈良志ほり, 宮地繁樹, 窪田清宏 (一般財団法人化学物質評価研究機構)
- 9:50-10:10 A-2 琵琶湖由来ミジンコを用いた急性遊泳阻害試験とオオミジンコとの比較  
○林芳和, 北島隆, 西田昌代, 中村昌文 (株式会社日吉)
- 10:10-10:30 A-3 水生植物に対する化学物質の影響へのクロロフィル遅延発光の利用  
○加藤貴央<sup>1)</sup>, 石原悟<sup>1)</sup>, 勝又政和<sup>2)</sup>, 竹内彩乃<sup>2)</sup>, 小林祐子<sup>2)</sup>  
(1 (独) 農林水産消費安全技術センター農薬検査部, 2 浜松ホトニクス (株) 中央研究所)
- 10:30-10:50 A-4 船底塗料用防汚物質 Irgarol 1051 の海産大型草類アマモに対する毒性  
○持田和彦, 隠塚俊満, 羽野健志, 伊藤克敏, 吉田吾郎 ((独) 水産総合研究センター・瀬戸内海区水産研究所)

10:50-11:00 休憩

座長：仲山 慶 (愛媛大学沿岸環境科学研究所)

- 11:00-11:20 A-5 セイヨウミツバチ幼虫に対する慢性摂食毒性試験 (Aupinel 法: OECD Draft Guidance) の有効性と課題  
○中村佳子<sup>1)</sup>, 白石晃代<sup>1)</sup>, 小林久人<sup>1)</sup>, 伊藤雅也<sup>1)</sup>, 野田篤<sup>1)</sup>, 雑賀修<sup>2)</sup>  
(1 (一財) 生物科学安全研究所, 2 株式会社日曹分析センター)
- 11:20-11:40 A-6 水生昆虫コガタシマトビケラの卵期における殺虫剤エトフェンブロックスの毒性影響  
○横山淳史, 依田育子 ((独) 農業環境技術研究所)
- 11:40-12:00 A-7 アキアカネ類幼生に対する稲箱施用殺虫剤の影響評価—試験時期の違いによる感受性値の安定性の検証—  
○大津和久 ((独) 農業環境技術研究所)

12:00-13:00 昼食休憩 (CERI学会賞授賞式 総会 A会場)

13:00-14:00 &lt;ポスター発表コアタイム C会場(203室)&gt;

14:00-14:10 休憩

## A会場(201室) &lt;一般講演発表&gt;

座長：宇野 誠一 (鹿児島大学水産学部)

- 14:10-14:30 A-8 クロトリアジン系除草剤によるカエル後期発生への毒性影響について  
○坂雅宏<sup>1)</sup>, 多田哲子<sup>1)</sup>, 鎌田洋一<sup>2)</sup> (1 京都府保健環境研究所, 2 岩手大学農学部)
- 14:30-14:50 A-9 ネオニコチノイド系農薬の環境変化体の水生生物に対する急性毒性  
○安田侑右<sup>1)</sup>, 岡村 哲郎<sup>1)</sup>, 石川英律<sup>1)</sup>, 宮本信一<sup>1)</sup>, 田畑彰久<sup>1)</sup>, 門川淳一<sup>2)</sup>, 高梨啓和<sup>2)</sup>  
(1 いであ株式会社, 2 鹿児島大学大学院・理工学研究所)
- 14:50-15:10 A-10 事業所排水の環境影響評価及び毒性原因の特徴化  
○板津靖之<sup>1)</sup>, 金俊<sup>1)</sup>, 福富真実子<sup>2)</sup>, 高野智宏<sup>2)</sup>, 楠井隆史<sup>1)2)</sup> (1 富山県立大学大学院, 2 富山県立大学)
- 座長：石川 英律 (いであ株式会社環境創造研究所)
- 15:10-15:30 A-11 下水処理場の環境影響評価: WET 試験と PRIR データによる予測  
○金俊<sup>1)</sup>, 板津靖之<sup>1)</sup>, 福富真実子<sup>2)</sup>, 高野智宏<sup>2)</sup>, 楠井隆史<sup>1)2)</sup> (1 富山県立大学大学院, 2 富山県立大学)
- 15:30-15:50 A-12 渡良瀬川における重金属汚染の100年の四次元解析および生物の環境適応戦略  
○多賀須誠樹<sup>1)2)</sup>, 頭士泰之<sup>3)</sup>, 征矢真広<sup>1)</sup>, 古井知<sup>1)</sup>, 太田将平<sup>1)</sup>, 片岡知里<sup>2)4)</sup>, 林岳彦<sup>5)</sup>, 立田晴記<sup>6)</sup>, 柏田祥策<sup>1)2)4)</sup>  
(1 東洋大学・生命科学部, 2 東洋大学・生命環境科学研究センター, 3 (独) 国立環境研究所・環境計測研究センター, 4 東洋大学大学院・生命科学研究科, 5 (独) 国立環境研究所・環境リスク研究センター, 6 琉球大学・農学部)
- 15:50-16:10 A-13 全球多媒体モデル FATE による臨界暴露量予測: 環境リスク評価の一元化に向けて  
○半藤逸樹<sup>1)</sup>, 河合徹<sup>2)</sup> (1 国立環境研究所・環境リスク研究センター, 2 総合地球環境学研究所・研究推進戦略センター)
- 16:15-16:20 閉会の挨拶 (A会場(201室) 奨励賞(ポスター発表)受賞者発表 大会実行委員長 楠井隆史(富山県立大))

## &lt;一般講演発表&gt;

座長：坂本 正樹(富山県立大学)

- 9:30-9:50 B-1 メダカ (*Oryzias latipes*) に対するエクインエストロゲンの潜在的内分泌かく乱作用  
○内田雅也<sup>1)</sup>, 小柳暁子<sup>1)</sup>, 草野輝彦<sup>1)</sup>, 石橋弘志<sup>2)</sup>, 富永伸明<sup>3)</sup>, 石橋康弘<sup>4)</sup>, 有菌幸司<sup>4)</sup>  
(1 瑞輝科学生物株式会社, 2 尚綱大学短期大学部, 3 有明工業高等専門学校, 4 熊本県立大学環境共生学部)
- 9:50-10:10 B-2 底質中環境ホルモンは食物連鎖で生物濃縮するか?  
Nurulnadia Binti Mohd Yusof<sup>1)</sup>, ○小山二郎<sup>2)</sup>, 宇野誠一<sup>2)</sup>, 天野春菜<sup>3)</sup> (1 鹿大連大, 2 鹿大水, 3 北里大水)
- 10:10-10:30 B-3 酵母レポーターアッセイと HPLC による河川水のステロイドホルモン様活性評価  
○原島小夜子, 中島早紀, 川西優喜, 八木孝司(大阪府立大学・理学系研究科)
- 10:30-10:50 B-4 細菌性感染症に対するコイの免疫応答に及ぼす化学物質の影響  
○仲山 慶, 池田宏文, 今宿 團, 佐藤健太朗, 北村真一(愛媛大学・沿岸環境科学研究センター)

10:50-11:00 休憩

座長：大嶋 雄治(九州大学大学院)

- 11:00-11:20 B-5 魚類の胚・仔魚期における短期毒性試験のオプションとしての EROD 活性測定手法の検討  
○川原志郎, 小林弘明, 関根俊郎, 原美由紀(川崎市環境総合研究所)
- 11:20-11:40 B-6 マコガレイ飼育試験におけるナフタレンおよびフェナントレンの蓄積特性  
○河野久美子, 大久保信幸, 羽野健志, 田中博之((独)水産総合研究センター・瀬戸内海区水産研究所)
- 11:40-12:00 B-7 魚類急性毒性試験における供試個体の諸要素が再現性に及ぼす影響  
-ニホンメダカ (*Oryzias latipes*) を用いた多世代・多条件比較試験-  
○中村 中<sup>1)</sup>, 菅原幸恵<sup>2)</sup>, 鎌迫典久<sup>1)2)</sup>  
(1 国立環境研究所・環境リスク研究センター, 2 東京大学大学院・新領域創成科学研究科)

12:00-13:00 昼食休憩 (CERI学会賞授賞式 総会 A会場)

13:00-14:00 &lt;ポスター発表コアタイム C会場(203室)&gt;

14:00-14:10 休憩

座長：富永 伸明(有明工業高等専門学校)

- 14:10-14:30 B-8 工業ナノ粒子の in vitro 生体影響評価を行うための最低条件  
岩橋均<sup>1)</sup>, 加藤晴久<sup>2)</sup>, 遠藤茂寿<sup>2)</sup>, 堀江祐範<sup>2)</sup> (1 岐阜大学, 2 産業技術総合研究所)
- 14:20-14:50 B-9 銀ナノコロイドのメダカ免疫シグナル影響  
○片岡知里<sup>1)2)</sup>, 泉庄太郎<sup>3)</sup>, 藤田深里<sup>4)</sup>, 柏田祥策<sup>1)2)4)</sup> (1 東洋大学大学院・生命科学研究科,  
(2 東洋大学・生命環境科学研究センター, 3 東海大学・海洋学部, 4 東洋大学・生命科学部)
- 14:50-15:10 B-10 メダカ受精卵の糖転移酵素遺伝子に対する銀ナノコロイドの影響  
○清水香里<sup>1)2)</sup>, 深尾研亮<sup>1)</sup>, 茂木双葉<sup>1)</sup>, 藤田深里<sup>1)</sup>, 柏田祥策<sup>1)2)</sup>  
(1 東洋大学・生命科学部, 2 東洋大学・生命環境科学研究センター)

座長：岩橋 均(岐阜大学)

- 15:10-15:30 B-11 環境粉じんの生物痕遺伝子情報を用いた地理的情報評価の可能性検討  
次世代シーケンサーによる環境粉じんの粒子径別植物痕解析  
○高橋淳子<sup>1)</sup>, 竹久祥悟<sup>2)</sup>, 岩橋均<sup>2)</sup>  
(1 (独)産業技術総合研究所・バイオメディカル研究部門, 2 岐阜大学・応用生物科学部)
- 15:30-15:50 B-12 非線形相互作用の起源：化学物質複合影響の理論研究  
○加茂将史<sup>1)</sup>, 横溝裕行<sup>2)</sup> (1 産業科学総合研究所・安全科学, 2 国立環境研究所・環境リスク研究センター)
- 16:15-16:20 閉会の挨拶 (A会場(201室)) 奨励賞(ポスター発表)受賞者発表 大会実行委員長 楠井隆史(富山県立大)

## 13:00-14:00 &lt;ポスター発表コアタイム&gt;

- P-1\* 抗菌剤曝露が及ぼす硝化反応の阻害  
○綱取泰広, 松村和也, 間世田英明, 柏田祥策, 清水和哉 (東洋大学)
- P-2\* 銀ナノコロイド曝露が及ぼす硝化反応阻害  
○荒川拓巳, 深津洪亮, 片岡知里, 柏田祥策, 清水和哉 (東洋大学)
- P-3\* 銀ナノコロイド曝露が及ぼす増殖阻害: 藍藻類と藍藻類捕食原生動物  
○藤野祐太郎, 金沢彩子, 片岡知里, 岩見徳雄, 杉浦則夫, 廣津直樹, 長坂征治, 柏田祥策, 清水和哉 (東洋大学)
- P-4\* 水質が藻類の慢性毒性に与える影響  
○余雅婷<sup>1)</sup>, 山崎友裕<sup>1)</sup>, 板津靖之<sup>2)</sup>, 金俊<sup>2)</sup>, 楠井隆史<sup>1)2)</sup> (1 富山県立大学・工学部, 2 富山県立大学大学院)
- P-5 *Dunaliella* sp.を用いるスクリーニング藻類生長阻害試験方法の開発 (2)  
○堤直希, 澤井淳, 菊池幹夫 (神奈川工科大学・応用バイオ科学部)
- P-6 WET 試験における藻類の遅延発光を利用した迅速評価法の検討  
○竹内彩乃<sup>1)</sup>, 勝又政和<sup>1)</sup>, 小林祐子<sup>1)</sup>, 佐藤由紀子<sup>1)</sup>, 藪村公子<sup>1)</sup>, 小池隆<sup>1)</sup>  
高田ゆり<sup>2)</sup>, 板津靖之<sup>2)</sup>, 福富真実子<sup>2)</sup>, 楠井隆史<sup>2)</sup> (1 浜松ホトニクス(株), 2 富山県立大学・工学部)
- P-7 *Daphnia* 2種に対する農薬の毒性影響  
○真野浩行<sup>1)</sup>, 坂本正樹<sup>2)</sup>, 岡本誠一郎<sup>1)</sup> (1 土木研・水質, 2 富山県立大学・工学部)
- P-8\* ミジンコおよび藻類に対する銀ナノコロイドの毒性と水質の関係  
○米島伸<sup>1)</sup>, 片岡知里<sup>2)</sup>, 立田晴記<sup>3)</sup>, 柏田祥策<sup>2)</sup>, 坂本正樹<sup>1)</sup>  
(1 富山県立大学・工学部, 2 東洋大学・生命科学部, 3 琉球大学・農学部)
- P-9\* 硬度の違いによる銅の形態とミジンコへの毒性の関係  
○河鎮龍<sup>1)</sup>, 加茂将史<sup>2)</sup>, 坂本正樹<sup>1)</sup> (1 富山県立大学・工学部, 2 産業技術総合研究所)
- P-10 マダイ *Pagrus major* 仔魚に対する六価クロムの急性致死影響  
○吉川貴志<sup>1)</sup>, 西村 真<sup>2)</sup> (1 公益財団法人海洋生物環境研究所, 2 株式会社環境総合テクノス)
- P-11 水生ミミズ (*Dero. limosa*) の試験生物化に関する研究  
多田 満, ○小神野豊 (国立環境研究所)
- P-12\* 殺虫・殺ダニ剤の作用機作による生態毒性発現パターンの解析  
○大貫晋平, 馬場康司, 藤掛登, 雑賀修 (株式会社日曹分析センター・小田原事業所)
- P-13 界面活性剤の共存による有機化合物の毒性変化を予測する手法の開発  
○長澤夏実, 菊池幹夫, 澤井淳 (神奈川工科大学)
- P-14 抗生物質オキシテトラサイクリンのマイクロゾウムへの影響  
○柴田賢一, 雨宮隆, 伊藤公紀 (横浜国立大学)
- P-15 農薬による水田生物多様性影響の総合的評価手法の開発: 今までの1年半で何が分かったか  
○林岳彦<sup>1)</sup>, 笠井敦<sup>1)</sup>, Boulange Julien<sup>2)</sup>, 渡邊裕純<sup>2)</sup>, 日鷹一雅<sup>3)</sup>, 五箇公一<sup>1)</sup> (1 国立環境研, 2 東京農工大学, 3 愛媛大学)
- P-16 実験系の違いによって異なる農薬の生態影響  
○坂本正樹<sup>1)</sup>, 河鎮龍<sup>1)</sup>, 真野浩行<sup>2)</sup>, 永田貴丸<sup>3)</sup> (1 富山県立大学・工学部, 2 土木研究所, 3 琵琶湖環境科学研究センター)

アスタリスク (\*) がついている発表は奨励賞 (ポスター) の審査対象です。